



国際ロータリー第 2840 地区 2025～2026 年度

MAEBASHI HIGASHI ROTARY CLUB

クラブ会報



会長 川嶋 潤 幹事 鈴木 みづえ 会報・公共イメージ委員長 田嶋 景姫 編集者 田嶋 景姫
 事務局／〒371-0847 前橋市大友町1丁目2番11号ロイヤルチェスター前橋内 TEL. 027-252-7907 FAX. 027-252-7926
 E-mail maebashi-higasi@rid2840.jp URL http://www.rid2840.jp/maebashi-higasi (10時～16時 休日 毎週火曜日)

2026年 2月 12日 (木) 第2255回 例会報告

点 鐘 川嶋 潤 会長
 ローターソング 我等の生業
 ビジター紹介 2025-2026年度 RI第2840地区第一分区ガバナー補佐 小磯 正康様
 前橋中央RC IM実行委員長 石川 直美様

会長の時間 川嶋 潤 会長



皆さんこんにちは。本日は小磯ガバナー補佐、前橋中央IM実行委員長石川様にご出席いただきましたこと改めて感謝申し上げます。他クラブの方がいらっしゃる時は変な緊張感がありますがいつもどおり会長の時間をさせていただきたいと思えます。

さて、先月のことですが、当クラブで一昨年度の補助金事業で前橋各所に寄贈をした黄色いベンチを見た、ザンビアの病院へ派遣されている丸茂さんとzoomをつないで派遣されている病院の現状、そして支援をお願いしたいとお話をいただいたのを覚えていらっしゃいますでしょうか。1月の理事会において支援の賛否について決議がなされ、支援することに決まりました。改めて皆さんのご意見を伺えればとは思いますが何かございますでしょうか。無いようであれば、国際奉仕の一環としてクラブより拋出致します。また設置等終わりましたらzoom等で報告をいただくつもりです。

もう一点、最近変なメールがほぼ毎日のように届きます。皆様の事業所へも届いていたりしないでしょうか。是非お気をつけください。

※RC事務局へ送られた迷惑メール: 会社の代表の名前で送られてきます

2026/2/12

IMのご案内



RI第2840地区第一分区 小磯 正康ガバナー補佐
前橋中央RC 石川 直美 IM実行委員長

※IMへのご参加をお願いします、とお話がありました。

出席報告

	会員数	休会者	出席者	欠席者	補填者	率
本日	51(50)	1	26(3)	25		55.32%
前々回	51(50)	1	51(7)	0	0	100.00%

※特別会員A(補欠法人会員)出席者 0名・特別会員B 出席者 0名

◆1月度平均出席率・・・75.53%

部会報告

ゴルフ部会 角田 有司 部幹事



お世話になります。ゴルフ部会、幹事の角田から報告させていただきます。

1月29日(木)に、東RCの第3回ゴルフコンペを倶楽部我山において開催いたしました。当日は19名の参加をいただきました。今回は、雪国魚沼RCから3名参加をいただきました。

我山での開催は、毎回参加人数も多く、楽しい一日になりました。成績は、池田さんの優勝でした。おめでとうございます。2位は川嶋会長、3位は縫島さんとなりました。

また、第4回のコンペを企画いたしますので、一人でも多くの方の参加をお待ちしています。以上です。ありがとうございました。

ニコニコBOX報告 原 拓也 委員

(順不同)



前橋中央RC IM実行委員会:IMのご案内に参りました。

川嶋会長・鈴木幹事:小磯ガバナー補佐、石川IM実行委員長、本日はありがとうございます。

原田くんの話、楽しみにしています。

釘島伸博会長エレクト:小磯様、石川様の来訪を歓迎して!

大本計馬さん:原田さんの卓話、聞けなくて残念です。

内山均さん:お久しぶりです。小磯さん、石川さんを歓迎して。

小山京子さん:小磯ガバナー補佐、IM実行委員長 石川様を歓迎して。又、原田さんの卓話を楽しみます。

新入会員卓話

◆原田 泰成 会員



皆さんこんにちは。ソニー生命保険株式会社の原田泰成です。

本日は皆様の貴重なお時間をいただき、このような場でお話させていただくことを光栄に思っております。本来であれば、皆さまの印象に残る面白いお話や、金融機関に勤務してきたこれまでの経験を基に、皆さまのお役に立てるようなお話ができたかなと考えたのですが、みづえ幹事より「特にテーマは決めずに自由に時間を使ってください。」と温かいお言葉をいただきましたので、本日は私自身のこれまでの歩みと今後の事業計画について決意表明の場としてお話をさせていただきたいと思っております。退屈な部分もあるかもしれませんが、温かい目でお見守りいただけると幸いです。

まず初めに、自己紹介をさせていただきたいと思っております。改めまして、私は2025年6月入会の原田泰成と申します。最近ですと若手会員の方からは社名を取って「ソニー」の愛称でお声かけいただくことが多く、原田の名前を覚えていただいている方が少なくなっていると思っておりますので、今一度ご認識いただければと思います。

2026/2/12

生まれは、1994年7月5日で埼玉県のさいたま市出身、現在31歳です。この1994年7月5日ですが、ある日本人のスターの方と同じ誕生日なのですが、どなたかお分かりになりますでしょうか。……そうです。大谷翔平選手です。銀行に入学したての当時はスポーツ選手の活躍寿命は長くないので、生涯年収では負けないように頑張りますと、自己紹介で話をしていたのですが、今では1か月ぐらいで私の生涯年収を稼ぐスーパースターに成長され、比べていたことすらおこがましい状態になっております。

家族構成は妻と3月で2歳になる息子の3人で、高崎に持ち家を構え生活しております。私の出身の埼玉県ではなく群馬県に住宅を購入した理由については、妻の強い希望があったことに加え、仕事の拠点を、社会人生活をスタートさせた群馬県に置きたいと考えたからです。この群馬への引っ越しが契機となり、丸橋常務にロータリーのご紹介をいただき、今日に至っております。ここまでが私の簡単な自己紹介になります。

ここからは本日の本題であります、「社会人としてのこれまでの歩みと、今後について」お話しさせていただきます。私の社会人生活は、大学卒業後、新卒で入学したみずほ銀行高崎支店からスタートしました。当時明確な将来の夢があったわけではありませんでしたので、「自分は何を仕事にすべきなのか」と考える中で、生活をするうえで欠かすことのできない“お金”に関する知識を身につけたいと思い、金融機関を志望いたしました。銀行には約6年間勤務いたしました。最初の高崎支店では約3年半、個人のお客様を中心に担当し、住宅ローンのご相談から、富裕層や企業オーナーの方々の資産運用、さらには相続対策まで、幅広い業務を経験させていただきました。当時はまだ20代前半で正直なところ、知識も経験も十分とは言えず、「本当にこの提案でお客様の役に立っているのだろうか」と悩むことも少なくありませんでした。しかし、高崎支店では大変環境に恵まれ常に支えてくださる上司や、真剣に耳を傾けてくださるお客様に出会い、金融マンとしてだけでなく、一人の社会人としての基礎を築いていただいたと感じております。

一方で、法人オーナーの方へご提案をする機会をいただいた際、自分が個人担当であるという立場から、法人専門担当者と比べるとどうしても信頼の厚みで劣ると感じる場面もありました。その課題を上司に相談したところ、「本気で法人をやりたいのであれば、自分から環境を変えてみろ」と背中を押していただき、職系転換を志願いたしました。

その後、赤羽支店へ異動し、法人中心の部署で約1年半の間、中小企業オーナーの皆様の融資相談やビジネスマッチングを担当させていただきました。さらに最後の約1年は法人部に所属し、一定規模以上の企業を担当いたしました。法人のお客様を担当することで、皆様から集めさせていただいている預金がどのように貸出され、銀行の利益となっているのかという構造を学び、貸出業務の必要性和重要性を改めて、再確認することができました。また、順調に見える企業様の裏側にも、経営者の方の葛藤や重圧があり、その一端を担わせていただけたことは、私にとって大変貴重な経験でした。個人から法人まで幅広く経験させていただいた6年間は、間違いなく私の大きな財産になっています。

しかし、その経験を重ねる中で、次第に強くなっていった想いがあります。それが、「よりお客様に近い立場で、長期的に寄り添える仕事がしたい」という気持ちです。銀行という組織においては、一定期間ごとに異動があり、関係性が深まり始めた頃に担当を離れなければならないこともあります。もちろん、必要な仕組みではありますが、私自身は、関係性が築けてきたからこそ打ち明けていただけるご相談や本音のお話に触れるたびに、「もっと長く伴走できないだろうか」と考えるようになりました。その想いが次の挑戦を考えるきっかけとなりました。

そうした中でご縁をいただいたのが、ソニー生命です。複数の業界を検討いたしましたでしたが、銀行で培った知識や経験を最も活かすことができ、かつ、お客様一人ひとりと深く向き合える仕事であると感じ転職を決意いたしました。

現在は約3年半、保険という形で個人・法人のお客様のリスクマネジメントに携わっております。銀行では「融資」という形で企業の挑戦を支え、現在は「保険」という形で未来への備えを支えています。形は変わりましたが、「お客様の挑戦を支える」という軸は、今もこれからも変わりません。

最後に、今後についてお話しさせていただきます。私は以前から、いつかは独立したいという思いを持っておりました。ただ正直に申し上げますと、それは「数年先、もう少し経験を積んでから」という、どこか安全な未来を描いたものでした。しかし、日々お客様と向き合う中で、その気持ちは少しずつ変化していきました。特に印象的だったのは、若手経営者の方々の姿です。決して十分な環境が整っているわけではない中で、大きな決断をし、挑戦を続けている。その姿を間近で見させていただく中で、「挑戦に完璧な準備などない」ということを学びました。

